

製品名: MEK キナーゼ-1 (リン酸化 Thr1402) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04999**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	160kDa

抗原情報

遺伝子名	MAP3K1
別名	MAP3K1; MAPKKK1; MEKK; MEKK1; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 1; MAPK/ERK kinase kinase 1; MEK kinase 1; MEKK 1
遺伝子 ID	4214.0
SwissProt ID	Q13233
免疫原	抗血清は、Thr1402 のリン酸化部位周辺のヒト MAP3K1 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 1368-1417

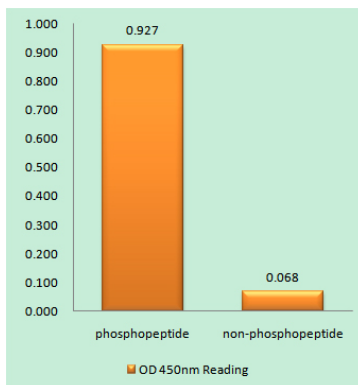
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質はセリン / スレオニンキナーゼであり、ERK および JNK キナーゼ経路、NF-κB 経路を含むいくつかのシグナル伝達カスケードの一部です。コードされるタンパク質は自己リン酸化によって活性化され、他のタンパク質のリン酸化においてマグネシウムを補因子として必要とします。このタンパク質は、N末端の植物ホメオドメイン (PHD) によって付与される E3 リガーゼ活性と、C末端のキナーゼドメインによって付与されるホスホキナーゼ活性を有します。[RefSeq 提供、2012年3月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素制御: オリゴマー形成後の Thr-1400 および Thr-1412 の自己リン酸化によって活性化。機能: タンパク質キナーゼシグナル伝達カスケードの構成要素。MAP2K1 および MAP2K4 のリン酸化により、ERK および JNK キナーゼ経路を活性化します。NF-κB 経路の中心的なタンパク質キナーゼである CHUK および IKKB を活性化します。PTM: 自己リン酸化されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼキナーゼキナーゼサブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。類似性: 1つの RING 型ジンクフィンガーを含みます。類似性: 1つの SWIM 型ジンクフィンガーを含みます。サブユニット: N末端を介して、多分子複合体中の上流活性化因子と下流基質の両方に結合します。MAP4K2 または TRAF2 に結合した後、オリゴマーを形成します。AXIN1 と相互作用します。

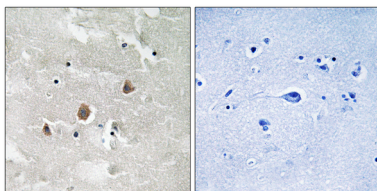
研究分野

SAPK_JNK; アクチンダイナミクスの制御; 細胞増殖; 幹細胞経路; MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein; B細胞受容体

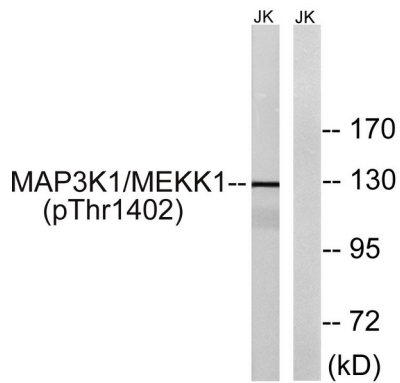
画像データ



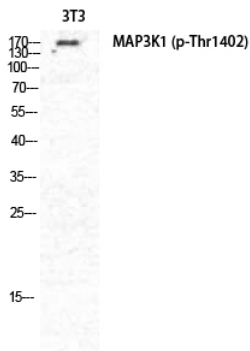
MAP3K1 (リン酸化 Thr1402) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



MAP3K1 (リン酸化 Thr1402) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



MAP3K1 (リン酸化 Thr1402) 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



NIH-3T3 細胞のリン酸化 MEK キナーゼ-1 (T1402) ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いたウェスタンブロット解析